別紙様式

平成２４年度　附属学校園存続のための特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	視聴覚機器（ipad）を活用した特別支援学級児童生徒への学習支援の方法開発
事業実施代表者名	伊藤　文雄
実施附属学校名	附属札幌小学校・中学校　特別支援学級
事業内容 （実施内容について、1,000 字程度で記述）	ipad の機能から授業を実践する際に教育効果が得られる機能、およびタブレット型コンピュータに不慣れな教職員でも容易に操作できそうな機能を精査した。そしてそれらの機能の特徴を生かした教育実践を行い、どのような学習や場面で活用できるのかをまとめた。
成果と課題 （活動の成果と課題について、500 字程度で記述）	カメラ機能としては直接テレビなどの視聴覚機器につないで投影する即興的な視覚的支援、静止画、動画を使った支援が挙げられる。小学校「生活科」の実践では棒温度計の目盛部分を指で拡大して見せたい部分を焦点化することができた。小学校「図画工作科」、中学校「美術科」の実践では、子どもたちそれぞれの作品に込めた主題を強調している部分を拡大して提示することで鑑賞の学習に役立てる支援となった。「音楽科」では歌唱、器楽指導の際に自分たちの歌声や演奏を振り返り、次時への取組へと生かす支援となった。地図機能としては、小学校「朝の会」で取り組んだ「昨日の話」で児童が休み中に行ったこと、出掛けたところを伝える際に ipad を活用することで聞いている児童もよりその話に興味をもって話を聞いたり質問したりする姿がみられ、コミュニケーションを図るきっかけづくりとなった。またウェブブラウザを使用した機能では中学校「体育科」でのハンドボールの動きを YouTube でその場で提示するなど、動きを確かめるための支援となった。しかし、限定された機能での実践であったため、今後、多様な機能を生かせるような、ipad を用いたより効果的な教育実践が求められる。
今後の発展性 （残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500 字程度で記述）	ipad にはダウンロードすることで教育活動に効果的な豊富なアプリケーションソフトを取り入れることができたり、クラウド機能も充実していることから児童生徒のこれまでの学びのポートフォリオ化として活用も考えられたりする。このような機能を生かす実践が今後、求められる。
事業の公表状況 （事業をＨＰで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入）	・北海道教育大学附属札幌小中学校特別支援学級研究紀要第 42 集で小学校生活科、中学校美術科の実践で掲載。

（注）当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。